NISSAY ASSET MANAGEMENT

週間市場レポート（2022年11月14日～11月18日）

1）先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/11/11	先週末 2022/11/18	前週末比 (%)
日経平均株価（円）		28,263.57	27,899.77	▲ 1.29 ↘
ＴＯＰＩＸ（東証株価指数）		1,977.76	1,967.03	▲ 0.54 ↘
ダウ工業株30種平均（ドル）		33,747.86	33,745.69	▲ 0.01 ↘
Ｓ＆Ｐ500種指数		3,992.93	3,965.34	▲ 0.69 ↘
ナスダック総合指数		11,323.33	11,146.06	▲ 1.57 ↘
ユーロ・ストックス50指数		3,868.50	3,924.84	1.46 ↗
Ｓ＆Ｐ/ＡＳＸ300指数		7,129.75	7,123.16	▲ 0.09 ↘
上海総合指数		3,087.29	3,097.24	0.32 ↗
MSCI AC アジア（除く日本）※		769.26	784.68	2.00 ↗
東証ＲＥＩＴ指数		1,978.09	1,952.82	▲ 1.28 ↘
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		744.42	732.37	▲ 1.62 ↘
ＡＳＸ300 ＲＥＩＴ指数		1,400.40	1,373.60	▲ 1.91 ↘
グローバルＲＥＩＴ（除く日本）※		176.43	174.13	▲ 1.31 ↘
日本10年国債（%）		0.242	0.249	0.007 ↗
米国10年国債（%）		3.813	3.829	0.016 ↗
ドイツ10年国債（%）		2.160	2.014	▲ 0.146 ↘
英国10年国債（%）		3.358	3.239	▲ 0.119 ↘
ドル/円		138.81	140.37	1.12 ↗
ユーロ/円		143.61	144.92	0.91 ↗
英ポンド/円		164.33	166.91	1.57 ↗
豪ドル/円		93.09	93.67	0.63 ↗
フィラデルフィア半導体指数		2,754.90	2,724.03	▲ 1.12 ↘
ＷＴＩ原油先物（ドル）		88.96	80.08	▲ 9.98 ↘
ＣＲＢ指数		285.79	276.40	▲ 3.29 ↘

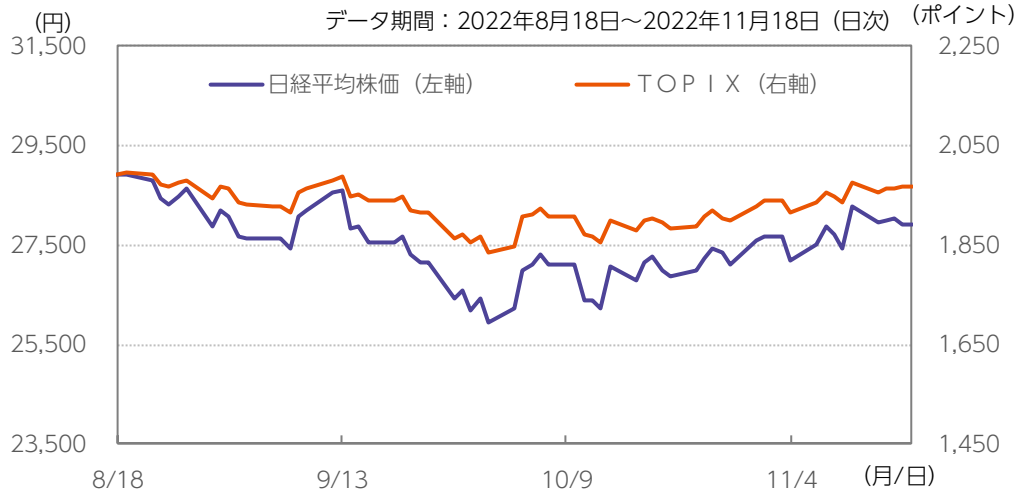
出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
※現地通貨ベース　＊ ▲はマイナスを表します。

2）日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落しました。

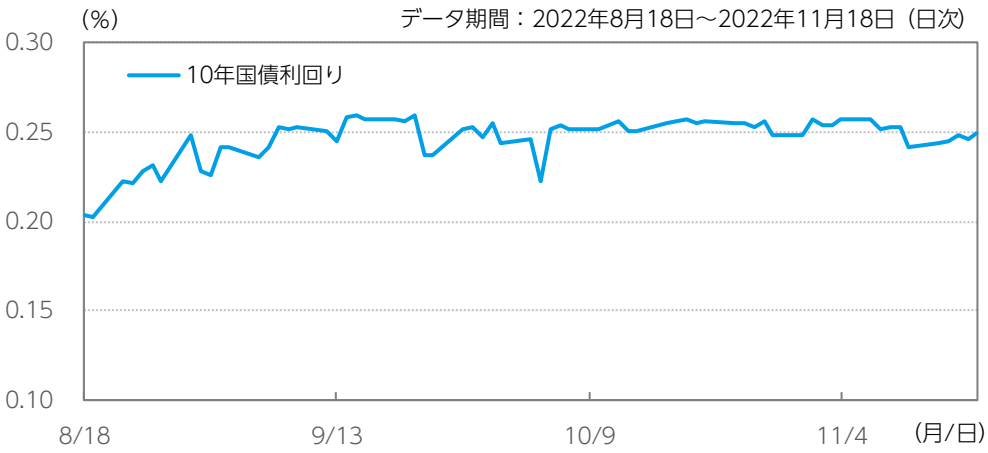
前週末に大幅に上昇していたため、利益確定目的の売りが優勢となったことなどから週初は下落しました。国内企業の７～9月期決算が終盤となるなか、好決算銘柄への物色買いが相場を支えたものの、節目となる28,000円を超える場面では利益確定売りも出やすく、週末まで小動きとなりました。



≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。

前週末に欧州主要国の長期金利が上昇した流れを受け、週前半は上昇基調となったものの、その後は、米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げペースが鈍化するとの思惑や、FRB高官の利上げの継続に前向きな発言を受け、週末まで一進一退となりました。

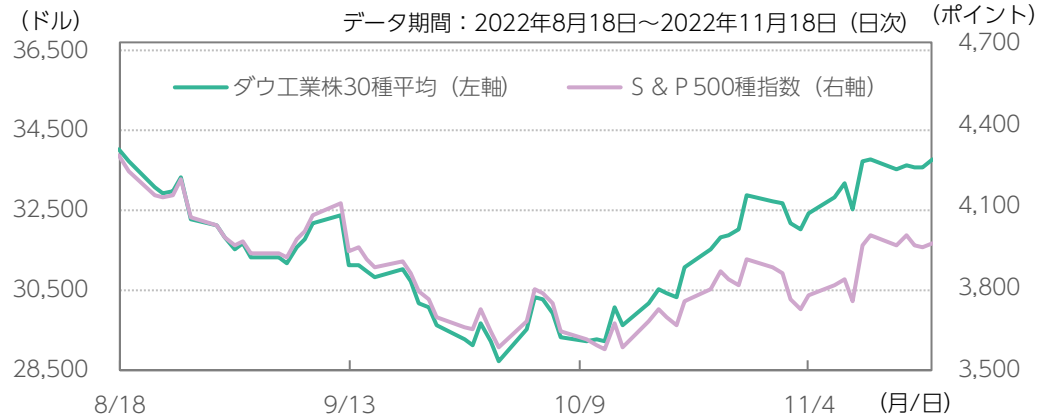


3）米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で横ばいとなりました。

週初は、FRBのウォラー理事のタカ派（金融引き締め推進派）的な発言で積極的な利上げの継続が意識され週初は下落しました。その後は、大手小売業や半導体企業の決算や、FRB高官の発言を睨みながら売り買いが交錯し、週末まで方向感の乏しい展開となりました。

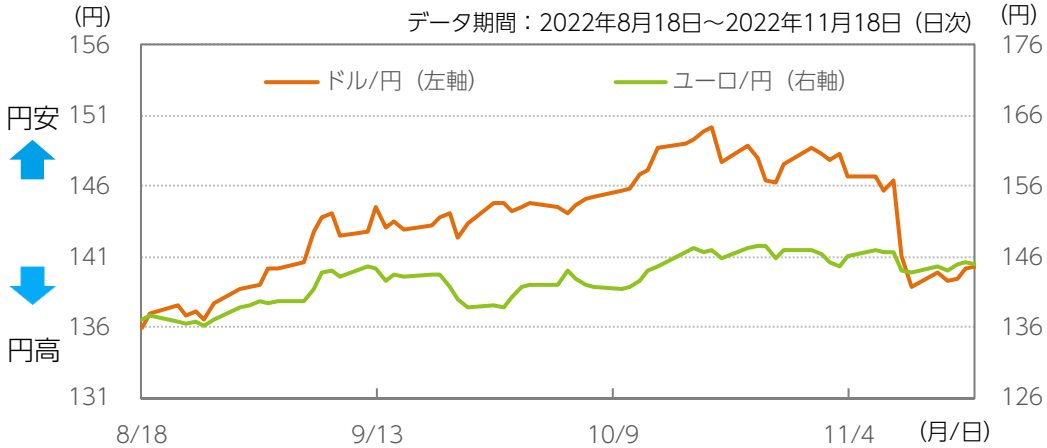


出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4）外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。

FRBのブレイナード副議長が利上げペースを鈍化させることが適切との見解を示したことから、週初は日米金利差の縮小を見込む円買い米ドル売りが強まったものの、その後、セントルイス連銀のブラード総裁が利上げの継続に前向きな発言をすると、週末にかけて円売り米ドル買いが進みました。



5）今週の見通しについて

10月の米消費者物価指数が前月から低下し、FRBが積極的な利上げを緩和するとの見方が広がるなか、株式市場は経済指標やFRB高官の発言を睨みながら一進一退となっています。

米国中間選挙では、上院は民主党の多数派維持が確定しました。一方、下院では共和党の獲得議席が過半数に達し、多数派を獲得しました。共和党が民主党に大差をつけて過半数を上回るとの見方が大勢を占めていたものの、想像以上に接戦となり、民主党との差は僅差となりました。下院を失ったことでバイデン大統領は政策実行が難しくなり、求心力が低下する可能性があるとの見方もあることから、今後の政策運営に市場の注目が集まるものと思われます。

国内外の企業の決算発表が終わり、材料難のなか、今週は、11月の米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨に注目が集まりそうです。内容が市場の想定よりもタカ派的と捉えられた場合には、FRBによる積極的な利上げの継続が意識され、株式市場は下落することも予想されます。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

＜設定・運用＞

ニッセイアセットマネジメント株式会社

商 号 等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社
コールセンター　0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ　https://www.nam.co.jp/